

29)

著者：原田泰伸，小森弘詞

論文題目：自動二輪車及び原動機付き自転車における出会い頭衝突事故率の違い
の要因の調査の試み

論文集名：日本交通心理士会第8回中国・四国・九州地区研究発表会論文集

発表年月：2015（平成27）年7月

頁：18, 19

自動二輪車及び原動機付き自転車における 出会い頭衝突事故率の違いの要因の調査の試み

原田 泰伸 (アイルモータースクール)

小森 弘詞 (アイルモータースクール)

1. 目的

原動機付自転車（以下、原付）及び自動二輪車の各台数当たりの死傷事故は、原付においては、出会い頭の衝突事故が最も多く、自動二輪車においては単独事故が最も多い [1]。原付において出会い頭の衝突事故が多いのは原付運転者の一時停止・確認の実行率が、自動二輪運転者と比較し低いのではないかと考えられる。原付自転車を含む自動二輪車の一時停止行動に関しては、踏切での調査があるが（65台中 30 台の停止） [2]、原付と自動二輪車のそれぞれについての調査資料は見いだせなかった。そこで、本研究では、原付と自動二輪車のそれぞれの一時停止実施率を調査し、この仮説の検証を試みた。

2. 方法

二輪車の多い交差点にビデオカメラを設置し、記録、確認を行った。二輪車の多い交差点として、設置場所は、山口県下関市豊北町の角島大橋入り口の一時停止交差点（図 1）と、下関市の東亜大学側の一時停止交差点に

てビデオカメラを設置し（図 2）、記録を行った。



図 1. カメラ設置場所（角島大橋入口）



図 2. カメラ設置場所写真
（東亜大学前）

3. 結果と考察

角島は日曜日で、天候が良かったため、多くの観光客がおり、撮影場所を通過した自動二輪車は、多くがグループリングのメンバーであった。また、停止した自動二輪車のうち、多くが単独走行、もしくはグループ走行の先頭車両であった。また、交差点の形状としては一時停止線の直近に横断歩道があった。この横断歩道を観光客が多く利用していた。東亜大学側交差点は、川を挟んで一方通行道路になっており、それぞれ付近の交差点が一時停止場所に指定されている。天候は6月7日（日）が晴れ、6月16日（火）が雨のち晴れであった。

表1の角島入り口交差点での一時停止行動の調査結果は2015年6月7日（日）の撮影分、表2の東亜大学側交差点での一時停止行動の調査結果は、2015年6月7日（日）及び6月16日（火）に行った撮影分についてである。原付の交通量が少なく、仮説を検証できる十分な標本を得ることができなかったが、一時停止を行った自動2輪車の台数に比較し、やや、原付の運転者の実施率が低いようにも思える。本研究の目的である原付自転車との出会い頭の衝突が自動2輪車よりも多いのは、原付自転車の一時停止しての安全確認実施率が自動2輪車よりも低いのではないかと仮説検証

のためには、さらに多くのデータの蓄積は必要と思われる。

表1. 角島入り口交差点での2輪車の一時停止行動

	通過台数	停止数
自動二輪車	86	8 (8.3%)
原付	1	0 (0%)
四輪車	349	53 (15.2%)

表2. 東亜大学側交差点での2輪車の一時停止行動

	通過台数	停止数
自動二輪車	2	0 (0%)
原付	12	0 (0%)
四輪車	31	4 (12.9%)

参考文献

- [1] 警察庁：交通事故統計 平成25年版.
- [2] 本田技研工業：FILE 12 車両の踏切通過状況を観察する.
http://www.honda.co.jp/safety/info/document_eye/pdf/document_eye_file_12.pdf